

真鶴町立ひなづる幼稚園

研究テーマ：「伝え合い・学び合いを通して育む、確かな学びと豊かな心」

～心と体を弾ませ、主体的に取り組める環境づくり～

1 実践の目的

一昨年度から本研究主題で研究に取り組んだことで園の環境を見直し、保育の在り方や環境構成についての話し合い、日案・週案等の計画の見直し・改善を行ったことにより、環境設定や安全配慮も明確になり、保育の振り返りや環境づくり、子どもの見取りについての理解が深まった。また、サークルタイム（話し合いの時間）を導入し継続することで、子ども同士の対話も増え、自分たちで考える力にも繋がった。さらに、研究を進める中で課題もたくさん見えてきた。

町の少子化に伴い少人数保育の中で、課題を乗り越える体験をどのように支え関わっていったらよいか。幼児が身近なものに自ら関わり、自発的な活動としての遊びがより充実・継続・発展するための環境づくりはどうしたらよいか。「幼児教育の重要性・遊びの大切さ・主体的な保育の在り方」などを保護者にいかに伝えていくかである。

こうした課題解決に向けて、子どもの思いや主体性を大切にしていける保育の探究・展開を引き続き大事にし、今年度も研究を深めていきたい。

2 実践の内容

(1) 研究の内容

○子どもの思いや主体性を大切にしたい保育を探究・展開する。

○子ども達が作り出した遊びが充実、継続し、発展できる環境づくりの工夫に取り組む。

○幼保小中の 12 年間の子どもの育ちの連続性を大切にし、特に幼保小の円滑なプログラムの推進に取り組む。

○園が取り組んでいることや大切にしていることを保護者に伝える。

○年間を通して幼小中の教師同士がお互いの保育や授業を参観して、町の一貫教育に向けた研究に取り組む。

(2) 保育参観・研究協議の様子

外部講師や指導主事を招聘して年間4回の保育参観等を行った。

- ① 6月12日(水) 年長組
- ② 7月10日(水) 年中組
- ③ 8月23日(金) 全クラス
- ④ 9月11日(水) 年少組

保育参観では、園長を含めた全教員で保育の様子を参観し、それぞれの幼児の動きを観察し、その内にある思いについて考察した。それぞれの見取りは協議において確認され、それぞれの幼児の理解の深まりにつながった。中学校の教員も保育参観に参加し、その見取りや感想は付箋に残され、協議の際や連携に生かされた。①には外部講師、②④には外部講師や県の指導主事③では外部講師とオンライン研修で1学期の保育の様子について協議した。

(3) 園内研修会の様子

年間10回のKYT等研修では、全職員が

子どもの危険を予測し、大きな事故に繋がらないための力を身に付けることや子ども理解、支援の仕方を検討し、日頃の保育に生かしている。

神奈川県公立幼稚園・こども園協会や民間団体主催のオンライン研修も7回行っている。

3 実践の成果と課題

- ・園内研究の中で外部講師や指導主事に具体的なアドバイスをいただき多くの学びがあった。夏休みにも、オンラインで保育に関する課題解決のための質疑応答の機会も設けた。また、年間を通してオンライン研修により、園内で研修に参加でき学ぶことができた。
- ・KYT 等研修や打ち合わせを通して保育の振り返りや子どもの共通理解ができ、全職員がチームとなって保育の体制を共有、支援することで園が子どもにとって安心して自己発揮できる環境となってきた。
- ・遊びの時間を十分確保することで、興味をもった遊びにじっくりと向き合い、試行錯誤をしながら繰り返し遊びを楽しんでいる。遊びの中で異年齢児が自然に交流し、互いに良い刺激を受けながら育ちあっている。
- ・サークルタイムで、子どもとの対話、聴く、伝え合う、振り返るということを大切にしてきた。子ども達から出た意見を尊重し、それを実現していくために一緒に考え実行してきた。運動会や発表会、園外保育などの行事もサークルタイムで取り上げ、年長児中心となって企画、調整していくことで充実感や満足感を味わい、自信がつき、自発的行動へとつながっている。
- ・子ども達が散歩や買い物、園外保育を通して真鶴との関わりを感じることができて

いる。直接体験を通して新しい発見も増え想像力も高まり、遊びを作り出し発展させていくきっかけとなっている。

- ・ICT(タブレットやデジタル顕微鏡)を保育に活用することで子ども達が自分達の動きや自然物を詳しく観察し振り返りながら学びや感動を共有することができた。
- ・今までの園での取り組みをタイムラインや写真等の掲示により子どもの様子を視覚的に記録すること、また、新たに保育ミーティングをすることで保護者に園の考え方や保育を理解してもらうことになった。

4 今後の展開

(1) 今後の研究の方向性

- ・今後も子ども達と生活を共に作りながら子ども達が遊びを生み出す環境を整えていきたい。また、遊びの様子の実態を捉え、子ども達と共に環境を再構成していきたい。
- ・ICT を活かして今後も子ども達の興味を深め、遊びに対する探究心や意欲的な活動につなげていきたい。さらに子どもが夢中になっていること、おもしろがっている場面などに着目し、ドキュメンテーションを用いながら研究を深めたい。
- ・小学校との架け橋プログラムに合わせた3年間の保育カリキュラムを検討する。

(2) 課題への対応

- ・少子化に伴い園児数が著しく減少するので、異学年交流や他園の交流も進めていき自分の思いや考えを進んで発信できるようにしていきたい。
- ・ICT やホームページなどを活用して、一人でも園児が増えるように、幼稚園の良さをもっと保護者や地域の方に伝える努力を継続していきたい。